

# 会派視察・研修報告書

会派名                      新生自民

代表者名                      林 美行

1 日にち	令和6年7月4日(木)
2 視察先 研修名、主催者及び会場	神戸市役所
3 参加者	林美行、葉狩拓也、亀井芳樹、獅子野真人
4 調査・研修の テーマ	スタートアップ支援について～ライフテック神戸の取組内容と課題、今後の展望
5 主な内容	産官学連携のもとに行っている、包括的なスタートアップ支援事業の仕組みについて
6 所感、提言事項、課題等	<p>【議員氏名】林美行</p> <p>2024年7月4日、スタートアップについての考え方を調査するため神戸市役所を訪れました。</p> <p>神戸市役所は、以前多治見市が市民参加の市政、計画行政の考え方を立案しようとする時期に伺って以来でしたので楽しみにしていました。以前、公聴広報の考え方、対話集会やアンケート調査などの公聴システムと計画行政の核である総合計画について確かなアドバイスを頂けたので、今回も期待をしていました。</p> <p>コザ市や福岡市のスタートアップ事業も以前視察をしたのですが、神戸市の取り組みのスケールの大きさには、本当に感動を覚えました。戦略的に長期にわたってビジョンに向かって、実際のプランを重ねていく神戸らしさにはうらやましさを感じるばかりでした。</p> <p>スタートアップを所管する新産業創造課は、「新産業の創出」に向けた国内外のスタートアップ支援と既存産業の高付加価値化やイノベーションの誘発を引き起こす「都市型創造産業」の振興を行う部局として2課を融合させたものである。</p> <p>特に、「ひょうご神戸スタートアップ・エコシステムコンソーシアム」がグローバル拠点都市に選定され、人材育成、創業支援、資金調達、海外</p>

展開を支援する活動を行っている。官民共同という視点、自治体による先端技術の導入を進める視点が、21世紀の世界の在り方の中での市民の生活の基盤を確かなものにしようとする行政の心意気を表していると感じました。

先端的医療に関する企業集積が行われており、この分野での世界展開を行うために、行政職員だけでなく民間企業出身者を任期職員として、米国西海岸駐在、また海外連携を行えるよう採用して、マイクロソフト社のAIの会社を誘致するなど実績を上げている。国内向けに、コミュニティ担当、実証実験官民ファンド、女性起業対応などの人材も確保している。

神戸から、世界の人々の毎日をより健康で豊かにするという先端的医療分野での世界展開、テクノロジーとサイエンスで未来の生活をつくる街としてワカモノ・エンジニア・女性起業家のコミュニティを神戸市内につくり上げるという明確な方針もあり、

- ・ スマートロックとICTを活用した学校施設の利用促進
- ・ 救急車の適正利用に向けたマッチングサービスの開発
- ・ 衛星データを活用した遊休農地の効率的な把握
- ・ アウトバウンドプログラムSDGSチャレンジ
- ・ インバウンドプログラム
- ・ グローバルビジネスマッチング・ビジネス交流拠点整備
- ・ AI開発拠点
- ・ 神戸医療産業都市

などの取り組みがスタートしています。

多治見市においても、何をどうするのか明らかにして、できることを行う時期ではないかと強く感じました。以前、核融合科学研究所を核とした研究学園都市構想に加え、超高温での新素材産業を新しい地場産業にしようとする計画がありましたが、十分な取り組みができませんでした。これは、市政が4年、8年という短期であることに課題があると考えますが、市長任期の4年がサイクルとなっている政策システムでは、長期のビジョンを多治見市は持てません。ここから変えないと多治見市のV字回復は望めないのではと感じました。

**【議員氏名】 葉狩拓也**

神戸市が行う、スタートアップ支援(ライフテック神戸)について、神戸市経済観光局新産業創造課からお話を伺った。

神戸市では2015年、市長がシアトル、サンフランシスコ(シリコンバレー)などの視察をきっかけに、スタートアップ支援の取り組みが進められてきた。先進的な取り組みを自治体が行うことにより、行政課題の解決や新たな産業の創出を自治体が自ら行うという取り組みにチャレンジしてきた。プロジェクト発足から10年近くが経過したが、いまだに課題が山積みで、まだまだ道半ばで成果としても実感できる状況ではないということだった。行政として取り組むには、かなりハードルが高いことから、民間の企業や民間の人材を活用してチームを作って取り組んでいた。自治体がこのような先進的な取り組みにチャレンジできるのは、財政的余裕

のある大都市神戸ならではだと感じた。

現在では、阪神淡路大震災からの復興プロジェクトとして行ってきた神戸医療産業都市とリンクすることにより、大きな成果が期待できる状況にまで来ていることがわかった。このような先進的な取り組みは、やはり全てが報われるわけではないが、チャレンジすることにより今後街を変えるような大きな成果を上げる可能性がある、夢のあるプロジェクトだと感じた。

**【議員氏名】 亀井芳樹**

神戸市は、市内経済の発展を担う2課を融合させ、新産業の創造に向けて推進力を高めるなど、スタートアップ支援を重視しています。

また、民間企業（経営者や大手企業）出身者を任期職員として登用し、行政と民間を繋ぐ役割をつくり、スタートアップ支援や、民間企業の支援を行っています。

行政職員にとっても良い刺激があり、民間企業出身者は想いを実現に近づけることができ、双方にとってメリットが大きいようです。

また、「神戸から、世界の人々の毎日をより健康で豊かにする」という理念の下、企業の世界進出もバックアップしていることを学びました。

本市にとっても美濃焼は、世界へ打って出ることができるプロダクトのため、スタートアップ支援や世界進出のスキーム等について、推進していけたらと考えます。

**【議員氏名】 獅子野 真人**

神戸市は、スタートアップ支援に力を入れていますが、非常に興味深いと感じたのは人員構成です。担当課の実に半分以上を外部人材で構成しています。理由は、市職員のみでは急速に変化する世界で最新情報をキャッチアップし切れないからです。外部人材を採用することにより、専門的な知識と最新の情報を取り入れることが可能となり、また、市職員の意識向上やスキルアップにもつながっています。

神戸市は、情報の非対称性を解消するために、企業やスタートアップ間の「つなぐこと」の重要性を強調しています。スタートアップが必要とするプラットフォームを提供することが行政の役割だとおっしゃっていました。このアプローチにより、スタートアップ同士や企業とスタートアップの連携が促進され、イノベーションが生まれやすい環境が整えられています。

多治見でのスタートアップ支援にどのように活かしていけるのか、市役所と話し合っていきたいと考えています。

7 写 真 等

※視察の場合は必須、研  
修の場合は任意



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。